

「(仮称)公共施設再編成の新しいカタチをつくるための提言」

骨子案

<構成>

○提言にあたり

○本編

1ー公共施設再編成を進めていくために

- (1) 全体最適化にむけて
- (2) 市民の意識啓発
- (3) ファシリティマネジメントと再編成の2つの視点
- (4) 新しいカタチの創造
- (5) 学校施設の利活用
- (6) 行政内部の連携、機能、組織体制強化

2ー第2期以降の行動計画策定における考え方

- (1) 対象施設
- (2) 行動計画の登載時期
- (3) 再編成の方向性の整理
- (4) 市民との意見交換
- (5) まちづくりの考え方
- (6) その他

○資料編

<具体的な提言内容>

○ 提言にあたり【蔵田委員長】

1 公共施設再編成を進めていくために

- ・公共施設の再編成を進めていくにあたり、龍ヶ崎市の現状から考えられる必要な事項について提言する。

(1) 全体最適化にむけて

- ・社会経済情勢の変化及び財政状況等に適合した必要性の高い機能を確保するために、公共施設の管理運営の効率化及び統廃合等を通じた公共施設の全体最適化を行うことが肝要
この結果、持続可能な地域経営を確立できる

(2) 市民の意識啓発

- ・本件に関する市民の理解・納得が不可欠。このため、特に「総論」の周知啓発をはじめ、市民との情報共有の推進が肝要

(3) ファシリティマネジメントと再編成の2つの視点

主要な取組として下記の取組を行うことが肝要

- ・日常的な取組(ファシリティマネジメント)で予防保全、長寿命化、ライフサイクルコストを低減
- ・長期的な取組(再編成)で全体最適化を推進

(4) 新しいカタチの創造

- ・ハコでも中味でもない、新しいカタチの意識を市民に浸透させることが大切
- ・施設の複合化(ハード)だけでなく、運営の改善(ソフト)の両方が必要
- ・身の丈にあったカタチを市民と議論し、つくるのが肝要

(5) 学校施設の利活用

- ・延床面積6割を占める学校施設の総量削減は避けられない
- ・参考となる事例等の紹介(文科省・学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議「学校施設整備基本構想の在り方について」報告書(平成25年3月)・有識者会議第3回)
- ・学校は単なる「ハコ」ではなく、「人を育てる」ところという考えが必要

(6) 行政内部の連携、機能、組織体制強化

- ・市職員(内部)の理解
- ・市長部局、教育委員会、学校の垣根を超えた仕組みが必要
- ・横断的に取り組むために人事戦略(キーマン)が必要
- ・通常業務を抱えて公共施設再編成を行うには限界がある。専門組織の創設が肝要

2 第2期以降の行動計画策定における考え方

- ・第2期(平成29～33年度)以降の行動計画の策定における考え方について提言する
- ・トライアル事業である第1期(平成25～28年度)については、情報収集や分析方法の検討等を行うことが肝要

(1)対象施設

- ・行動計画の対象施設は、全ての施設とすることが肝要

【その他の意見】

- ・施設を選定する場合は、市の重要課題から対象施設を選定した方が効果的
- ・施設を選定する場合は、延床面積が大きい施設から取り組んだ方が効果的

(2)行動計画の登載時期

- ・一定のルール化が肝要

【その他の意見】

- ・さいたま市では、更新時期に複合化を原則としている

(3)再編成の方向性の整理

- ・客観的基礎データの充実が肝要
- ・多面的な分析が肝要(稼働状況、管理運営費用、物的状態など)
- ・既存データの活用が肝要(事務負担の軽減)。このため、固定資産台帳(インフラ・公共施設)を利用した分析ツールの活用なども有効。
- ・利用状況の把握には、フォーマットの作成が肝要。日常業務としての稼働率管理。

【その他の意見】

- ・さいたま市では、データは毎年更新。マネジメントツールとして活用
- ・秦野市では、1年おきに情報収集。基本情報を定期的に集めることが主眼
- ・習志野市では、データ更新が課題。余分な調査はしない方向で準備
- ・コストパフォーマンスを判断する際に何と比較するかが難しい
- ・優先順位を決めるためにはデータが必要
- ・「物的情報」「コスト情報」「利用状況」で選定する場合、ウエートをつけた方がよい

(4)市民との意見交換

- ・行動計画策定過程において、十分な情報公開・提供が肝要
- ・構想段階から意見交換等の機会設定が肝要

【その他の意見】

- ・市民アンケートは個別施設より、機能の優先順位を問うた方がよい
- ・市民アンケートは、地域力(の存在の有無)を探れる項目がよい
- ・選定結果後の選択肢を市民に見せる必要あり
- ・大きい声が市民の代弁者ではない。市民の広い声を集めることが大切

(5)まちづくりの考え方

- ・公共施設再編成はまちづくりの視点が欠かせない
- ・まちづくりのプロセスそのものに市民が関与できるようにすると効果が大きい

【その他の意見】

- ・秦野市では、市民の日常生活レベルで優先順位を考えた
- ・「将来のまちづくりの方向性」と「人口」の両視点から優先順位を考える
- ・施設見直しの際、管理運営を任せられる相手を探す必要あり
- ・「地域の特性」を考慮することも重要
- ・秦野市は旧町村が地区割りの基軸、習志野市・龍ヶ崎市が小学校区という、この中間の地区割も考え方のひとつとなる

(6)その他

- ・できあがるものはなるべくシンプルなものが多い

○資料編

- (1) 龍ヶ崎市公共施設再編成の行動計画策定に係る有識者会議設置要項
- (2) 龍ヶ崎市公共施設再編成の行動計画策定に係る有識者会議名簿
- (3) 龍ヶ崎市公共施設再編成の行動計画策定に係る有識者会議開催経過

(コラム 学校施設の利活用 ※第3回会議での倉斗副委員長からの事例紹介)